

「スチール缶」に関する意識調査 調査結果ダイジェスト

1. スチール缶について

■ スチール缶がリサイクルの優等生であることは知られていない。

各飲料容器について、リサイクル率が1位だと思うものから6位だと思うものまで順に訊ねたところ、リサイクル率が『1位だと思う容器』として最も回答が多かったのは「ペットボトル」(52%)で、「スチール缶」はわずか4%と下位であった。(図1)

「スチール缶」は2位～3位に選ばれる割合が高く、総合的な順位は1位のペットボトル、2位のアルミ缶に続き、3位であった。

実際のスチール缶のリサイクル率は90.4%(平成23年度)と、高い割合だが、一般生活者にはスチール缶がリサイクルの優等生であることを知られていないことが明らかとなった。

【図1:リサイクル率が高いと思う容器】

(n=3000)

順位	リサイクル率が1位だと思う容器	(%)
1	ペットボトル	51.7
2	アルミ缶	18.1
3	ガラスびん	16.0
4	紙パック	9.2
5	スチール缶	4.1
6	紙またはプラスチックカップ	0.8

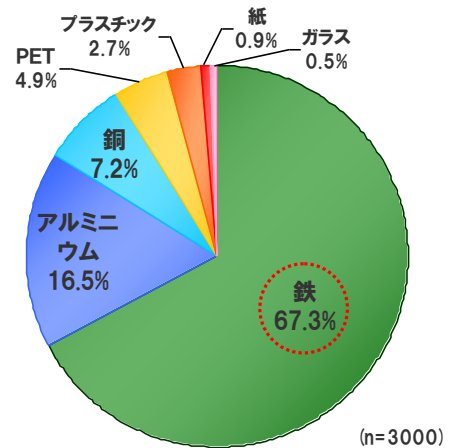
■ 3人に1人はスチール缶が鉄でできていることを知らない。

若い世代ほどスチール缶が鉄でできていることを知らない比率が高い。

スチール缶の素材について訊ねたところ、「鉄」と正しく認識しているのは67%にとどまり、3人に1人はスチール缶が鉄でできていることを知らないことがわかった。(図2)

若い世代ほど、スチール缶の素材を正しく認識しておらず、10代女性で「鉄」と回答したのは半数を下回った。

【図2:スチール缶の素材認知】



■ スチール缶が製鉄所でリサイクルされていることを知らない人は、約6割。

スチール缶のリサイクル特性について、「缶だけでなく別の鉄製品にも生まれ変わること、「製鉄所でリサイクルされている」ことは6割前後が「聞いたことはない」と回答した(図3)

リサイクル特性についても若い世代で認知が低く、特に10代～40代女性で「聞いたことはない」の割合が7割前後と高かった。

【図3:スチール缶のリサイクル特性認知】

	よく知っている	聞いたことはある	聞いたことはない
スチール缶は、缶だけでなく、別の鉄製品にも生まれ変わる (n=3000)	13.0	27.8	59.2
スチール缶は、製鉄所でリサイクルされている (n=3000)	10.4	25.2	64.4

「スチール缶」に関する意識調査 調査結果ダイジェスト

2. 飲料購入について

- 購入時、気にするトップ3は、「値段」・「中身」・「容量」。
- 購入時、容器で気にするトップ3は、「持ち運びしやすさ」・「飲みやすさ」・「適量」

最近1年以内に各容器入り飲料を自購入した人に、購入時に気にすることを訊ねたところ、「値段」、「中身」、「容量」が上位であった。(図4)

また、飲料購入時、容器について気にすることを訊ねたところ、「持ち運びしやすい」、「飲みやすい」、「量がちょうど良い」が上位であった。(図5)

これらは性別・世代を問わず、購入時の上位に挙げた。

【図4: 飲料購入時に気にすること
(5段階回答のTop2スコア)】

* 最近1年以内の飲料の購入者ベース
(n=2851)

順位	飲料購入時に 気にすること	(%)
1	値段	80.8
2	中身	78.6
3	容量	71.6
4	持ち運びの利便性	69.0
5	ブランド・銘柄	47.3

【図5: 飲料購入時、容器について
気にすること(5段階回答のTop2スコア)】

* 最近1年以内の飲料の購入者ベース
(n=2851)

順位	購入時、容器に ついて気にすること	(%)
1	持ち運びしやすい	71.3
2	飲みやすい	71.0
3	量がちょうど良い	68.5
4	信頼できる	58.5
5	安心感がある	55.5

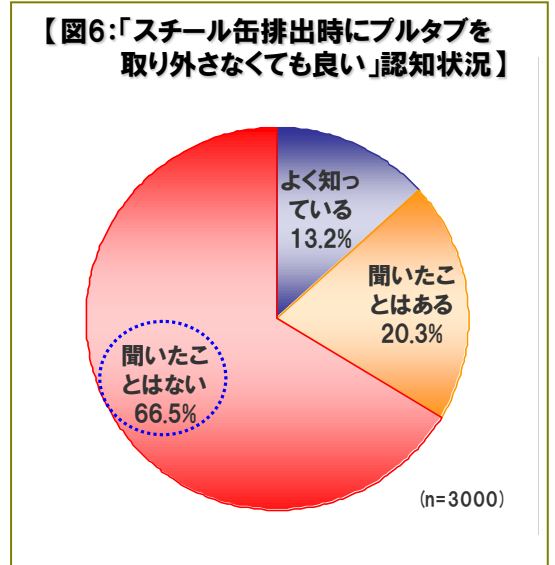
「スチール缶」に関する意識調査 調査結果ダイジェスト

3. 分別排出について

■約7割が、スチール缶の排出時、「プルタブ」を外さなくともよいことを知らない。

スチール缶を排出する際に『プルタブを取り外さなくとも良い』ことについての認知状況を訊ねたところ、「よく知っている」(13%)、「聞いたことはある」(20%)の認知者の方が少数派で、「聞いたことはない」と答えた人が67%と大多数を占めた。(図6)

性別・世代別の特徴をみると、30代以上の男性では認知率がやや高いものの、30代未満の女性では認知率が3割を下回るなど、差がみられた。



■「スチール缶」、「アルミ缶」、「ペットボトル」、「ガラスびん」は、7～8割が家庭で資源ごみとして分別して排出されているのに対し、「紙の容器」、「プラスチックの容器」は、約5割が一般ごみとして排出されている

最近1年以内に各容器入り飲料を飲用した人に、飲用後の主な排出場所を訊ねたところ、スチール缶、アルミ缶、ペットボトル、ガラスびんは、7～8割が家庭で資源ごみとして分別して排出されているのに対し、紙の容器、プラスチックの容器は、約5割が一般ごみとして排出されていることがわかった。(図7)

ただし、スチール缶、アルミ缶、ペットボトル、ガラスびんも、若い世代ほど一般ごみとして排出している割合が高い。

【図7:飲料容器の飲用後の主な排出場所】

飲料容器	n	排出場所							
		家庭で資源ごみとして(分別して)	家庭で一般ごみとして	学校・会社で	コンビニ・スーパーで	集団回収・学校回収で	街中のごみ箱・その他		
スチール缶	1691	60.0			11.5	7.0	10.3	5.7	5.6
アルミ缶	2045	63.9			10.5	5.0	8.9	7.5	4.3
ペットボトル	2859	59.0			16.1	5.2	11.8	4.7	3.3
ガラスびん	1028	66.0			11.7	2.6	6.3	10.0	3.4
紙パック	2072	31.4		45.8		4.2	12.4	3.8	2.4
紙またはプラスチックカップ	1000	27.7		51.9		6.2	5.2	2.1	6.9

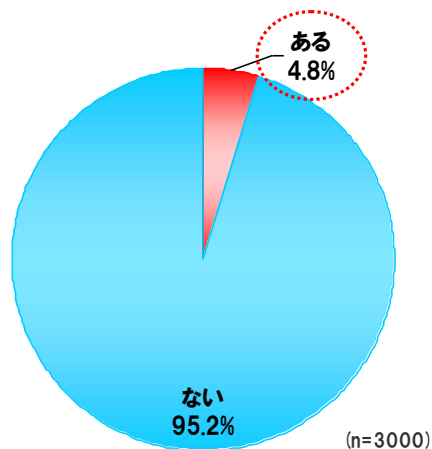
4. ポイ捨てについて

■ 1年以内での飲料容器のポイ捨て経験者は、依然として5%存在する。

1年以内に飲料容器を路上等に“ポイ捨て”したことがあるかどうかを訊ねたところ、95%は「ポイ捨てをしたことはない」と答えたものの、残る5%は1年以内にポイ捨てを経験しているということがわかった。(図8)

性別・世代別では、10代男性のポイ捨て経験率が最も高く、14%にもものぼった。以下、20代男性、30代男性、10代女性で7~8%と、若い世代でのポイ捨て経験率の高さが目立った。

【図8: 1年以内の飲料容器のポイ捨て経験】



「スチール缶」に関する意識調査 調査結果ダイジェスト

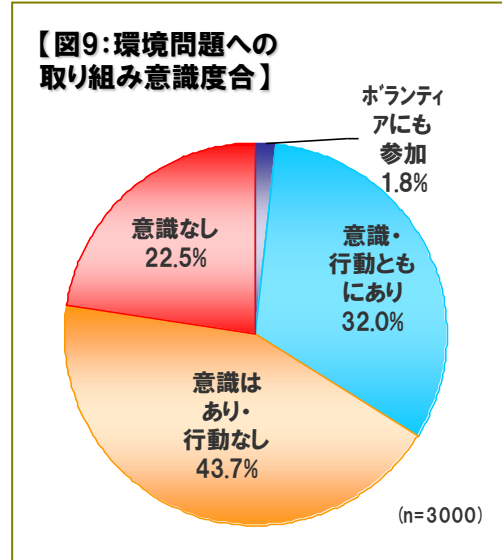
5. 環境意識について

■環境意識が低い人は、約7割。 リデュースの意味が分からない人が約6割。

環境問題への取り組み意識の度合いを4段階で訊ねたところ、「意識なし(環境問題は特に意識していない)」と答えた人が23%、「意識はあり・行動なし(環境問題は意識しているが、あまり行動には移していない)」が44%と、環境意識が低い人の割合が7割を占める結果となった。(図9)

また、環境にかかわる言葉として「リデュース」、「リユース」、「リサイクル」の言葉の認知状況を訊ねたところ、「リデュース」については「言葉を聞いたことはある」(31%)、「知らない」(28%)と、意味を知らない人の割合が6割を占めた。(図10)

環境意識は若い世代ほど低い一方、環境にかかわる言葉は若い人の方が意味を理解しており、矛盾が生じている。



【図10:リデュース・リユース・リサイクルの言葉の認知】

	言葉の意味を理解し、常に行動している	言葉の意味を知っている	言葉を聞いたことはある	知らない	意味を知らない・計
リデュース(Reduce) (n=3000)	13.5	28.0	30.5	28.0	58.5
リユース(Reuse) (n=3000)	16.6	38.0	26.1	19.3	45.4
リサイクル(Recycle) (n=3000)	32.6	46.2	13.6	7.6	21.2

■容器包装のリサイクルマークを見たことはある人は約9割を占めるが、マークの意味まで知っている人は、約6割に留まる。

各容器のリサイクルマークについて、認知状況を訊ねたところ、「マークの意味まで知っている」と「見たことはある」を合わせた合計は、どのマークも9割前後を占めている。一方、「マークの意味まで知っている」人の割合は5割~6割に留まる結果となった。(図11)

「見たことはある・計」の割合は、どのマークでも性別・世代別では大きな差は見られず、全体的に目にとまってはいるが、「マークの意味まで知っている」は、どのマークでも20代男性、30代男性で特に認知率が低くなっている。

【図11:各容器のリサイクルマークの認知状況】

(n=3000)	マークの意味まで知っている	見たことはあるのみ	見たことはある・計
	58.9%	36.4%	95.3%
	60.6%	35.1%	95.6%
	50.7%	43.0%	93.7%
	51.0%	35.0%	86.0%
	61.1%	34.5%	95.6%